

# 研修報告書

## 目次

1. 研究主題	1
2. 研究主題設定の理由	1
3. 研究仮説	3
4. 全体構想	3
5. 研究方法	3
6. 研究内容	4
(1) 文献調査・先行研究調査	4
(2) 単元構想	9
(3) 検証の視点について	10
7. 研究の実際	10
(1) 国語の授業に係る実態調査	10
(2) 予備授業	11
(3) 検証授業Ⅰ	14
(4) 検証授業Ⅱ	21
8. 研究の成果と課題	27
(1) 成果	27
(2) 課題	28
9. まとめ	29
10. 研究成果の還元方法	29
11. 参考文献・引用文献	29

## 1. 研究主題

学ぶ意欲を高め、「豊かな読み」のおもしろさを実感させる国語科文学的文章の指導  
～「個別最適な学び」と「協働的な学び」を位置付けた授業実践を中心に～

## 2. 研究主題設定の理由

現在「Society5.0時代」が到来しつつあり社会の在り方そのものが劇的に変わる状況が生じていることに加えて、新型コロナウイルス感染症収束後の「ニューノーマル」へ移行していくことが求められている。このような複雑で先行きが不透明な「予測困難な時代」では、一人一人そして社会全体が、目の前の事象から解決すべき課題を見だし、主体的に考え多様な立場の者が協働的に議論し納得解を生み出すことなど、学習指導要領で育成を目指す資質・能力が一層強く求められている。中央教育審議会答申（令和3年）「令和の日本型学校教育」の構築を目指して」においては、2020年代を通じて実現を目指す「令和の日本型学校教育」の姿を「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学び」とした。「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う必要がある（資料P.1）。小学校学習指導要領解説国語編では、「PISA」や「全国学力・学習状況調査等」の結果を踏まえて国語科で育成を目指す資質・能力を、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」とした。国語で正確に理解し適切に表現するには、「学びに向かう力、人間性等」が大きな原動力となり「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」は相互に関係し合いながら育成される。なお、学習指導要領改訂後に実施されたPISA2022（令和4年実施）では習熟レベル1以下の低得点層の割合は前回調査に比べて有意に減少しており成果が見られた。

令和6年度全国学力学習状況調査において、在籍校の国語科の平均正答率は72%（大分県+3%、全国+4.3%）であった。「読むこと」に関する正答率は、大分県と全国のどちらも上回っていた。児童質問紙では、「国語が分かる」は88.0%（大分県-0.4%、全国+1.7%）であったが「国語が好き」は62.6%（大分県-5.5%、全国+0.2%）と大分県と比較すると低かった（資料P.2）。令和6年度在籍校の子どもを対象に実施したアンケート（第6学年）の結果【表1】によると「国語がとても分かる、分かる」と答えた子どもは83.6%と昨年度より低かった。これは高学年になり、これまでの学習の積み重ねの差が開いたことや内容が難しくなってきたことが要因として考えられる。また、国語の学習が「好き」「まあ好き」の子どもの割合は58.8%、さらに、国語の学習が「楽しい」「まあ楽しい」と答えている子どもは69.4%である。これまでの調査結果を踏まえると、国語は「できる」「分かる」が、「好きでない」「楽しくない」と感じていることが分かり、5年時の大分県学力定着状況調査の結果から引き続き意欲面に課題が見られる。（資料P.3, P.4）

【表1】在籍校児童（第6学年）の各種調査結果

各種調査名	正答率	国語が好き	国語が分かる	国語が楽しい
令和6年度 在籍校児童アンケート		58.8%	83.6%	69.4%
令和6年度 全国学力学習状況調査 (令和5年度学力定着状況調査)	72.0% (75.9%)	62.6% (50.3%)	88.0% (85.8%)	

一方、「国語の中で得意な学習はどれですか」や「説明文と物語文ではどちらが好きですか」といった質問に対しては、「物語文」と答えた子どもが多かった。そこで、国語の領域のうち子どもが楽しいと答えた割合が高く、正答率も高い「物語文」を扱えば、「物語文」を通して国語が好きな子どもが増えるきっかけとなり、それが他領域にも広がり、「国語が楽しい、好きだ」という子どもを育成することができるのではないかと考える。

国語科の指導について、教職員の実態をふりかえると、毎日が慌ただしいことに加え、若年層の占める割合が高くなっており、「文学的文章は読んで感想を交流しさえすればよいのではないか」「国語の授業はやり方が分からない」という声が聞かれる。大分市教職員へのアンケート結果によると、約77%が「国語の指導が苦手」と答えており、「国語の指導が得意」と答えた教職員はその理由として、「専門だから」「ずっと研究してきたから」等があげられた。

(資料P.5)「文学的文章を指導する上で困りがある」と答えた教職員は、約64%で「物語のおもしろさや楽しさ、魅力を感じさせることができない」「登場人物の気持ち等、生活経験や語彙力の差で想像を広げることが難しい」「深く読ませるためには時数が足りない」「課題の作り方分からない」等があげられた。とくに、子どもたちはインターネットを利用して短時間で情報を得ることが主流となり、そこで獲得した言葉を日常生活で不適切に使っている様子も見られる。「日常的に使う語彙数の不足」や「体験の乏しさ」等から、言葉から自分の経験を結び付けるなど想像をふくらませることは難しいと感じている教職員が多かった。

また、「個別最適な学び」と「協働的な学び」については、「理科の観察で選択するようにしている」「特別支援学級なのでそれぞれにあっためあてを設定している」等はあったが、「個別最適な学び=ICT」、「協働的な学び=グループ活動」と捉えられる回答も多かった。さらに、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の授業を国語で実践していますかについては、約65%が「実践している」「実践するよう努めている」と回答しているもののその内容については検討が必要なものだった。

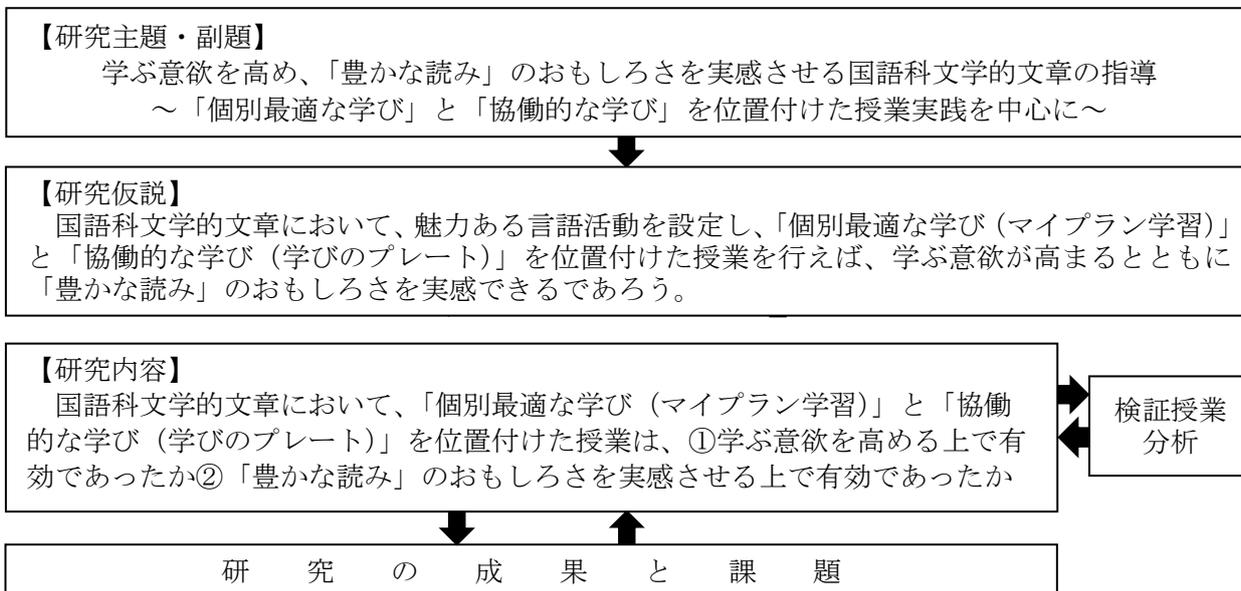
阿部昇(2015)や二瓶弘行(2021)らによると、「国語の授業で、子どもに学ばせ身に付ける力、つまり教科内容は極めて曖昧であり、学習指導要領の指導事項においても実際の授業レベルまでの具現化が図られていない」とある。また、西田、平瀬(2022)によると「多様な文学的文章を一律に分析できる観点を示すことは容易ではなく、結果として、文学作品の読みは個人の力量に任されている部分が少なくない」としている。このように、国語科の指導方法とくに文学的文章においては、指導者によって差が生じ、それが子どもの学ぶ意欲や読解力に大きな影響を与えていることを否定できない。

これまで述べてきたことを踏まえて、子どもに必要な資質・能力を身に付けさせ、国語が「分かる」「できる」に加えて「おもしろい」「好き」と学ぶ意欲を高めるために国語科文学的文章の指導方法について、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を位置付けた授業の在り方を検討する。これらの取組を通して、子どもが学ぶ意欲をもって主体的に学習し、「豊かな読み」のおもしろさを実感できるとともに、指導方法に困りを抱えている教職員にも新たな提案を行うことができるのではないかと考え、本研究主題を設定した。

### 3. 研究仮説

国語科文学的文章において、魅力ある言語活動を設定し、「個別最適な学び(マイプラン学習)」と「協働的な学び(学びのプレート)」を位置付けた授業を行えば、学ぶ意欲が高まるとともに「豊かな読み」のおもしろさを実感できるであろう。

### 4. 全体構想



### 5. 研究方法

#### (1) 文献調査・先行研究調査

- ①国語科学習指導要領C「読むこと(文学的文章)」(第5学年及び第6学年)の指導事項について
- ②「学ぶ意欲を高める」ために
- ③「豊かな読み」のおもしろさを実感するとは
- ④「国語科文学的文章の指導方法と理論」について
- ⑤「個別最適な学び」について
- ⑥「協働的な学び」について
- ⑦「ICTの活用」について

#### (2) 単元構想

- ①教材分析「やまなし」「ぼくのブック・ウーマン」
- ②魅力ある言語活動の設定について

#### (3) 仮説検証

- ①大分市教職員及び在籍校児童の実態把握と分析
- ②検証授業に向けた国語科学習指導案作成
- ③検証授業及び分析
- ④「宮沢賢治の世界」案内書の作成と発表及び「学年ブックトーク」による児童観察
- ⑤事後調査による児童の変容の分析

#### (4) 研究のまとめ

## 6. 研究内容

### (1) 文献調査・先行研究調査

#### ①学習指導要領C「読むこと（文学的文章）」（第5学年及び第6学年）の指導事項について

イ 登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に捉えること。（構造の内容と把握）

エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を答えたりすること。

（精査・解釈）

オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。（考えの形成）

カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。（共有）

これらの指導事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

<言語活動例>

ア 説明や解説などの文章を比較するなどして読み、分かったことや考えたことを、話し合ったり、文章にまとめたりする活動。

イ 詩や物語、伝記などを読み、内容を説明したり、自分の生き方などについて考えたことを伝え合ったりする活動。

ウ 学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。

#### ②「学ぶ意欲を高める」ために

辰野（2009）は、学習意欲とは「学習動機（欲求）を選択し、それを実現しようとする心の働き」と定義している。「学習意欲を高めるためには、何をどうすればよいのかその構成要素を明らかにすることが必要である」と述べている。【表2】

【表2】学習意欲を構成している要素、辰野（2009）

要素	定義
(1) 欲求	学習意欲を引き起こす原動力である。この欲求のタイプの強さが学習意欲に影響する。
(2) 興味	ある対象に対して、おもしろくて心が引き付けられることである。
(3) 必要感	学習の必要性を意識することである。
(4) 要求水準 （期待水準）	本人が自分の学習に対し、どの程度のことを期待し、要求しているか、その高さである。
(5) 決断力	学習に向かう場合、いろいろの動機（欲求）が同時に起こってきたとき、学習に対する動機をきっぱりと選択し、決定できるかどうかである。
(6) 忍耐力	我慢強さである。目標達成のためには、他の欲求をおさえられるかどうか、他の誘惑に負けないかどうか、苦しくても我慢できるかどうかである。
(7) 持続性 （固執性）	始めたことを最後までやりぬく粘り強さである。途中で飽きても我慢して最後までやりぬく持続力である。
(8) 自発性	人に言われなくても、自分の意志で自分から進んでする特性、いわゆる積極性である。
(9) 自主性	他の人の助けを借りずに自分でやっていく特性。つまり人に頼らないで自分のことは自分でする力である。
(10) 自己効力 感有能感	ある課題を与えられたときに、その課題を効果的に解決できるという自信、さらには、全体的に自分は有能であるという自信である。

学ぶ意欲を高めるための重要なキーワードが「エンゲージメント」である。鹿毛（2022）によると、「エンゲージメントとは没頭している心理状態のことで子どもが熱中し、夢中になっている状態」である。やる気（意欲）の原型には、「やりたいからやる」「やるべきだからやる」という二つの側面がある。この二つの側面を刺激された一瞬一瞬の心理状態がエンゲージメントであり、このときに学習のプロセスと成果の質が上がる。そのため、授業づくりの際に

はこのエンゲージメントを意識することが重要になる。あわせて、鹿毛は教師が指示するのではなく自ずとやる気になるよう環境を工夫する「太陽型アプローチ」を提唱している。「教師の役割は、いかに多くの子供たちが、より多くの時間エンゲージメント状態になれるのかということ意識して授業づくりや教育環境をデザインしていくことだ」と述べている。

これらのことから、学ぶ意欲を高めるための授業づくりでは、まず、一人一人の子どものやる気を理解するために、学習意欲を構成している要素を手がかりに観察して実態をつかむ。その上で、前述したやる気の性質の二つ（やりたいと思うこと・やるべきだと思うこと）を意識した教材や単元、学習課題を準備する。さらに、学力面や心理面でサポートし子どもに安心感を与えたり、子どもの言葉を受け止めた発問ができたりするなどの教師の支援が必要だと考えられる。

### ③「豊かな読み」のおもしろさを実感するとは

「豊かさ」とは、不平や不満がなく充実している・満足している状態のことだと考える。西郷（1986）は、「言語・文法等をふまえた確かな読みが根底にあり、その上で豊かな読みが成り立つ。言葉の意味や文法をおさえ、正確に読まなければ、見出す意味やイメージも変わってくるため、一語一句きっちりとおさえ、確かな読みをしなければならない」と述べている。西郷は、視点人物の身になって体験を共にすることを「同化」とした。「同化」を保障してこそ感動を味わい、物語のおもしろさを味わうことができる。また、人物の姿・行動を外から客観的に見ることを「異化」とした。「異化」によって子どもは、感動の理由を叙述から明らかにしたり、物語の構造を理解したり、作者の言葉の選び方や表現のしかたを理解したりするなどしてそれを評価する。西郷は、この「同化」と「異化」をくり返しながら一人一人が個性的にイメージを描くことを「豊かに読むこと」としている。また、逸見（2014）は、「作品と向き合い、その内容を捉え直していくこと」を豊かな読みとし、そのためには「叙述をもう一度捉え直すことによって読みを深めたり、自分の読みと他者の読みの違いに気付いて考えを深めたりする学習活動が必要」と述べている。松中（2024）によると「物語を読むおもしろさとは、物語を読んでいく中で、考えたり心を動かしたりする知的・情意的な反応が繰り返され、変化していくことである。読者は言葉や文を関係付けて解釈を行い、物語の人物や出来事、場面が展開する像を描く。そして、想像の体験を楽しみ、知的・情意的な反応を繰り返していく。どんな人物が、どんな出来事によって、どう変化し、それらがどのように描かれているのかということが少しずつ明確になり、物語のおもしろさへとつながっていく」としている。つまり、最初に読んだ曖昧な読みではまだおもしろさは実感できず、「同化・異化」を繰り返しながら友だちと交流したり、作者の人生やその物語の時代背景と関連付けて考えたりすることで、「確かな読み」をもとにした「豊かな読み」へとつながり、そのおもしろさを実感できると考える。

そこで本研究においては、「確かな読み」とは、言葉の意味や文法の正しい理解を獲得した上で叙述をもとに物語の場面設定を正確に読み取ることとする。「豊かな読み」とは、文学的文章を読んで「同化・異化」をくりかえすとともに自分と違う考えにふれて、内容を捉え直すことで、想像力等を広げ深めていく読みのこととする。

#### ④「国語科文学的文章の指導方法と理論」について

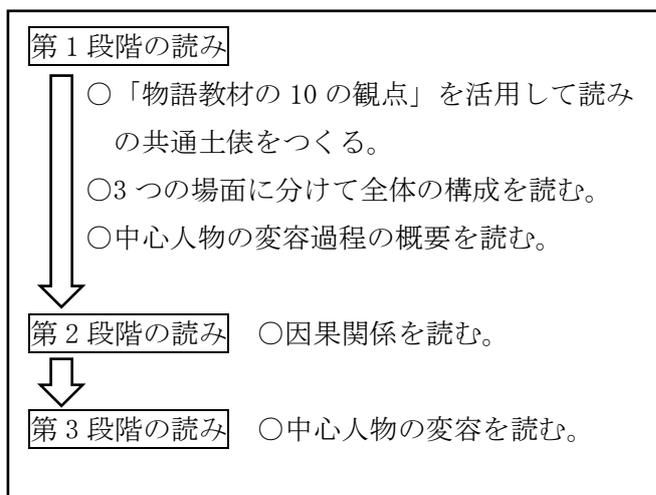
##### i 言語活動の設定および単元計画

水戸部（2023）は、「言語活動を通して指導事項を指導するという国語科の基本的な枠組みをおさえた授業づくりを進めることが前提となる」とし、指導のねらいにふさわしい魅力的なゴールとなる言語活動を設定するとともに、学習のゴールを子どもと共有できるようにすることの重要性を示している。「単元全体のゴールに向かう見通しがあることで、自らの学習を調整しやすくなる」と述べている。単元全体を見通すことで、教師だけでなく子どもも「次の時間までにここまで分かっておかなければならない」と自己調整しながら学習することができる。そのためには、教師が単元計画を立てる中で、国語の授業において、「何を教えるのか」「どんな力を身に付けさせるのか」「その学びは子供にとって必然性のあるものか」をはっきりさせておかなければならない。さらに、単元が終わったあとに成果物が残り、学んだことを伝える活動があることも魅力の一つであると考え

##### ii 物語教材の読み方

白石（2011）によると、「多くの国語の授業は、イメージと感覚だけの授業、作品の内容をなぞるだけの授業、暗記中心の授業、活動中心の授業になっており「考える」という思考活動が欠けている。「国語の用語を教える」「方法を教える」「原理原則を教える」といったどんな教科にも共通する指導のポイントを十分に認識した上で論理的に思考する国語の授業を行っていくことが大切である。」と述べている。白石（2011）の文学的文章の指導法は【表3】に示すように「三段階読み」である。最初に【表4】の「10の観点」で全体を読み作品を読むための一本の軸をつかむ。次に細部を読んで因果関係をとらえ、最後に全体を貫く軸をもう一度確かめることで、主題が分かる。この「三段階読み」を続けることで、子どもは豊かな読書、「突き抜ける読み」（学んだことを生かせる）ができるようになるとしている。

【表3】物語教材の三段階の読み、白石（2011）



【表4】物語教材の10の観点、白石（2011）

設定	①時・場所
人物	②登場人物
	③中心人物
	④語り手
事件	⑤事件（出来事）
	⑥大きく変わったこと
関係 付ける	⑦3部構成
	⑧お話の図・人物関係図
	⑨一文で書く
	⑩おもしろさ

### ⑤ 「個別最適な学び」について

「個別最適な学び」とは、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うことなどの「指導の個別化」と一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供し子ども自身の学習が最適となるよう調整する「学習の個性化」を学習者視点から整理したものである。水戸部（2023）によると、「個別最適な学びを学習者視点から捉え直せば子供が自らの関心や目的等に応じて、学習方法や教材、学習時間、学習課題等を選択し、学びを最適なものにできるよう調整する姿である」「国語科においても子供自身が判断して実行したり、試行錯誤したりできる、一定程度長い時間を確保した柔軟な学習活動の枠組み「ロングレンジ」が望ましい」としている。同様に谷口（2023）は「自由進度学習は、教師が計画する学習内容のフレーム内で、子ども一人一人が課題を自己決定し、計画を立てて自分の学習速度で進め、その過程で友だちと相互に作用しながら学びを深めていくことを目指したものである」と定義している。【表5】には自由進度学習における手立てと内容の例が示されている。これは「単元内自由進度学習」とも呼ばれ、奈須（2021）によると「学習形態は、「自律的な個別学習が協働的な位置付けではなく単元全体に及ぶこと」「様々なメディアや操作教材、体験学習なども駆使すること」「単元開始時に各自が全体の学習計画を立案し自らの学びをモニターしながら学び進めること」で、メタ認知や学習を自己調整する力の育成をねらう」としている。

【表5】自由進度学習における手立てと内容の例、谷口（2023）

必要な手立て	内容
a 学習計画表の工夫	学習計画には、全員が必ずする学習と自分で決めて自由にする学習を設定し、学習内容も選択できるようにする。
b 個への支援の工夫	タブレット端末の自動採点機能や振り返りカードを活用して個々の学習の進捗や定着の状況を把握する。子どもの自己表現を大切にしながらその結果を教師が把握して個別の支援に生かす。
c 環境整備	一人一人の興味・関心、学習のスピード等に対応できる教材の準備や実験や観察等の体験的な活動を繰り返しできるスペース、一人一台のタブレット端末を使いこなすデジタル環境などを整える。

**マイプラン学習 『星空を届けたい』**

6年（ ）組 名前（ ）

<マイプラン学習とは>  
 ○ねらいを達成するために、自分にあった学習を選んで進めます。  
 ○終わらなかった人は、休み時間や放課後を使って必ず次の日までに終わるように自分で工夫しましょう。  
 ○はやく終わった人は、他の学習方法もためてみましょう。レベルアップ問題に挑戦するのもおすすめです！

☆この時間のねらい☆  
 「星空を届けたいをブックトークしよう。」

レベルアップ問題  
 ブックトークの様子動画を撮影して改善しよう！

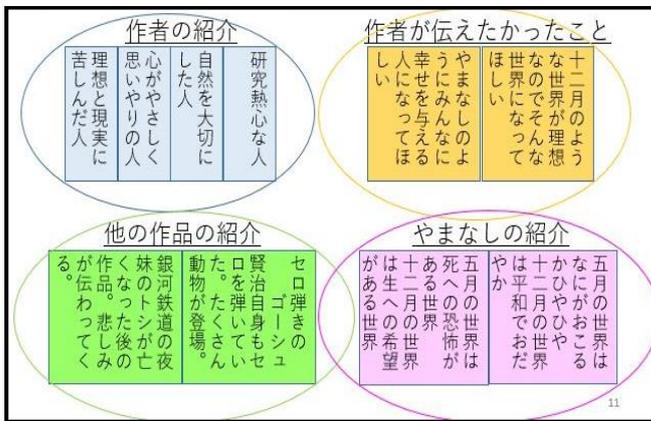
学習活動	①「ブックトーク」の内容を確認しよう	②「ブックトーク」のセリフを考えよう	③「ブックトーク」の練習をしよう	④「ブックトーク」をしよう
目安の時間	10分	10分	10分	10分
学習方法	A.動画を確認する B.文章で確認する C.メモで確認する	A.ノートに文章を書いて B.ふせんにメモを書いて C.暗記して	A.友達と二人で B.一人で C.動画をどって	A.動画を撮影してロイロノートでおく
チェック				

【図1】「マイプラン学習」（予備授業で使用したもの）

本研究においては、これらの「個別最適な学び」の視点を取り入れた学習を「マイプラン学習」という言葉で学習者に提示する。【図1】のように「マイプラン学習」の手引きの作成と活用を検討する。「マイプラン学習」とは、ねらいを達成するために、自分に必要だと思う学習方法を選択して行うものである。例えば、読む方法を「音読」「黙読」「範読をきく」「動画を視聴する」等から、自分に合ったものを選択できるようにすること等である。

## ⑥ 「協働的な学び」について

「個別最適な学び」を推し進めつつも、孤立した学びにならないようにこれまでも重視されてきた他者と協働しながら、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することが重要である。ペア、トリオ、班、全員と学習形態の工夫を行い、互いの考えを交流することで「個別最適な学び」での自分の学びを広げたり、深めたりしていく。本研究においては、これらの「協働的な学び」の視点を取り入れた学習を「学びのプレート」という言葉で学習者に提示する。「学びのプレート」とは、【図2】のように「マイプラン学習」で各自が学んだことをもちより、比較・検討して自己の考えを深めるというものである。その際には、ロイロノートの共有ノートを活用したい。さらに、「学びのプレート」の作成時には「マイプラン学習」で同じ手立てを選択した子ども同士で交流させ、各自が自分の班にもち帰ることでさらに読みを深めるきっかけとしたい。



【図2】 学びのプレート

また、「協働的な学び」は、同一学年・学級だけでなく、異学年間の学びや他校の子どもとの学び合いも考えられる。学校における様々な活動の中で異学年間の交流の機会を充実させ、子ども自らがこれまでの成長を振り返る等の取組も大切である。そのため、学習後にはふれあい班等での交流活動を計画する。

## ⑦ 「ICTの活用」について

「個別最適な学び」においても、「協働的な学び」においても有効な手立てとなるものがICTである。考えられるICTの活用として【表6】に示すようなものが挙げられる。

【表6】 国語科（読むこと）の「個別最適な学び」と「協働的な学び」におけるICTの活用

	ICTの活用(ロイロノート)	子ども	教師
個別最適な学び	①カード	○自分の考えを書くことができる ・課題の答え、授業の振り返り等	それぞれの考えや進度等学習状況を把握できる
	②録音機能 ③インターネット	○自分の音読の様子（正確さ、表現の工夫等）を確認できる ○調べ学習 ・教材に登場する言葉や名称等の画像や動画を調べ想像をふくらませることができる ・物語の作者や登場人物、出来事等について詳しく調べることができる	正確に読めているかや家庭学習に取り組んでいるか確認できる  全体指導ができないところも個別に対応できる
協働的な学び	④マイフォルダ	○ポートフォリオ ・調べたものや自分の考えを保存し、単元の学びを積み重ねることができる	学習進度を把握できる 協働的な学び合いのグループ編成に活用できる
	①提出箱 ②共有ノート ③録画機能	○意見交流 ・全員の意見を共有することができる ○班活動 ・推敲作業ができる ・役割分担をして一つにまとめることができる ○振り返り・改善 ・発表の様子等を確認し互いに助言し合い、内容を改善できる	全員の意見を扱うことができる 学習進度を把握できる  積み重ねた学習をもとに単元のゴールを達成できる  指示するのではなく自主的に改善させることができる

## (2) 単元構想

### ①教材分析「やまなし」「ぼくのブック・ウーマン」(資料P. 22, P. 32)

#### i 「やまなし」について

やまなしは、日本文学において数々の名作を残した岩手県出身の宮沢賢治の作品である。宮沢賢治の作品は、「イーハトーヴ」という理想郷が舞台であるものが多い。「かぶかぶ」や「もかもか」といった独特の擬音語や比喻や色を用いた美しい情景描写が宮沢賢治の作品世界を創っている。やまなしは、「私」による一人称で書かれた外枠と、三人称の客観的な視点で書かれた「五月」と「十二月」の二枚の幻灯という額縁構造になっている。谷川の底から見た水中の世界が、「五月」と「十二月」とを対比させながら描かれている。一度読んだだけでは、意味が分からない場合が多い。しかし、かへの会話やとびこんできたものに注目させたり、資料「イーハトーヴの夢」から作者の生き方や考え方にふれ作者が作品に込めた思いを見付けたりすることで、作品の内容を深めることができるとともに作品を理解したときの満足感は大きい。また、岩田(2016)によると「私たちは「やまなし」を読みながら、実は「やまなし」の物語を創っているのである。そこでは、読むことは書くことと同様に能動的な営みとなり、そこにこそ心はあつくはずむようなワクワク感も生じるのではないだろうか」とあり、「やまなし」が他の物語と比較して、書いていない物語を想像力によって紡ぎだす行為をよりはっきりと自覚しやすいとしている。そのため、「目の前に新しい世界が広がるような思いをもって物語を読むってこういうことなんだと子どもたちが感じてくれる」ところに、「やまなし」の授業化の意義があるとしている。「やまなし」はよく分からないからこそ、想像力を広げ読みのおもしろさを実感するきっかけとなる教材だと考える。

#### ii 「ぼくのブック・ウーマン」について

「ぼくのブック・ウーマン」は、今年度から新たに掲載された教材(光村図書出版「国語六」)で実話をもとにした翻訳文学である。1930年代のアメリカでは、ルーズベルトの雇用促進計画の一つとして「荷馬図書館計画」が実施された。馬に乗って遠隔地に本を届けた女性のことを「book women」「book ladies」「packsaddle librarians」と呼び、作品の舞台であるアパラチア山脈に1935年から1943年ごろまで本を届けていた。本に何の価値も見いだせず、本を大切にす家族に対して嫌悪感を抱いている「カル」が、危ない目に合うことも恐れずに馬に乗って本を運んでくる「ブック・ウーマン」との出会いをきっかけに本に夢中になる。この作品を通して本の魅力に再度気付くことができ、作品を読み終わったあとには本を読みたいという気持ちが高まり、日常の読書の幅を広げることのできる教材だと考える。

### ②魅力ある言語活動の設定について

「やまなし」と「ぼくのブック・ウーマン」は、2学期に学習する文学的文章の教材である。学んだことや分かったことを学年や全校に「伝える」という言語活動を設定する。「やまなし」では「宮沢賢治の世界」案内書を班で作成させ、「ぼくのブック・ウーマン」では、「キャッチコピーを入れた本の帯(紹介POP)」を個人で作成して伝える。そうすることで、相手意識や目的意識が明確となり、読む必然性が生じる。そこで身に付けた

読み方について、できたことやできなかったことを振り返らせて次の学習に生かす。それをくりかえすことで自立した「読み」のできる学習者を育てたい。また、単元計画を作成する際には、相手意識や目的意識に加えて、本単元での付けたい力を明確に提示する。

具体的には検証授業Ⅰの「やまなし」の学習後に「宮沢賢治の世界」案内書を用いて、6年生どうして宮沢賢治作品の魅力を伝える。その後、学年代表を決めて昼の放送で全校に伝える。検証授業Ⅱの「ぼくのブック・ウーマン」の学習後に「翻訳文学作品をブックトークしよう」というテーマで「ぼくのブック・ウーマン紹介 POP/キャッチコピー」をもとに幅広く読書ができるように翻訳作品の魅力を伝える。活動後には、「宮沢賢治の世界」案内書と「ぼくのブック・ウーマン紹介 POP/キャッチコピー」を各学年の教室近くや図書室に掲示して、1～5年生の目にとまるようにする。

### (3) 検証の視点について

本研究では、国語科文学的文章において、「個別最適な学び（マイプラン学習）」と「協働的な学び（学びのプレート）」を位置付けた授業は、①学ぶ意欲を高める上で有効であったか②「豊かな読み」のおもしろさを実感させる上で有効であったかという視点を基に、仮説を検証していく。

## 7. 研究の実際

### (1) 国語の授業に係る実態調査（資料 P. 5）

#### ①大分市教職員の实態把握と分析

大分市教職員アンケート（回答数 388 人）によると、95%が文学的文章を指導する上で子どもは楽しく学んでおり、力を付けていると答えた。また、23%が国語の授業が得意と答え、その理由として「説明的文章の指導は形式が決まっていて指導しやすい」ということだった。一方で、77%が国語の授業が苦手だと答え、64%が文学的文章を指導する上で困りや課題があると答えた。とくに、教材「やまなし」については、ねらいを達成するための工夫や手立てについて、「子どもが分かりにくい」「説明型の授業になってしまう」

「教材研究が不十分」等の困りや課題が多いと分かった。子どもだけでなく教職員でさえも分かりにくく、教材の魅力を伝えるまでに至らないとのことだった。また、「個別最適な学び」は、国語科における具体的な取組が少なかった。これらのことから、国語科の文学的文章において子どもは楽しんで学んでいるものの教職員は指導方法等に困りや課題を抱えており、説明的文章のようにある程度の形式を提示できるとよいと分かった。さらに、「個別最適な学び」を位置付け、どの子どもたちにも分かりやすい授業ができるような具体例を示していくことが必要だと考える。

#### ②在籍校児童（第6学年）の实態把握と分析（資料 P. 3）

在籍校児童アンケート（第6学年）によると、「国語はわかりますか」という質問に対して「とても分かる」「分かる」という回答を肯定的な回答とし、「あまり分からない」「分からない」を否定的な回答として分類した。その結果84%の児童が肯定的な回答をした。同様に「国語は楽しいですか」という質問に対して「とても楽しい」「楽しい」という回答を肯定的な回答とし、「あまり楽しくない」「楽しくない」という回答を否定的な

回答とした。その結果69%の児童が肯定的な回答をしたが、「国語は分かりますか」という質問と比較すると数値が低かった。

検証については、一人一人のアンケートの回答や、振り返りの記述、学習中の様子などを総合的に分析することによって、国語科文学的文章において、「個別最適な学び（マイプラン学習）」と「協働的な学び（学びのプレート）」を位置付けた授業により、学ぶ意欲が高まったか、「豊かな読み」のおもしろさを実感できたかを見取る必要があると考える。在籍校の児童は、国語が「できる」「分かる」が、「好きでない」「楽しくない」と感じて

【表7】在籍校児童アンケート（第6学年）をもとに行った子どもの層分け

＜事前アンケート結果＞		
とても楽しい・楽しい 70% (111人)	とても分かる・分かる 85% (134人)	
あまり楽しくない・楽しくない 30% (48人)	あまり分からない・分からない 15% (25人)	

↓

層	国語は楽しいですか	国語は分かりますか
A層 64% (101人)	とても楽しい・楽しい	とても分かる・分かる
B層 6% (10人)	とても楽しい・楽しい	あまり分からない・分からない
C層 21% (33人)	あまり楽しくない・楽しくない	とても分かる・分かる
D層 9% (15人)	あまり楽しくない・楽しくない	あまり分からない・分からない

おり、意欲面が課題としてあげられる。そこで仮説検証のため、【表7】のように在籍校児童アンケートの「分かる」「楽しい」を中心に層分けを行い、各層から児童を抽出し、その結果を授業前後で比較することで仮説を検証していく。

## (2) 予備授業（資料 P. 7）

### 予備授業 I 「たのしみは」（国語科における対象児童の実態把握のため）

実施日 令和6年6月18日（火）～令和6年6月24日（月）

対象 大分市立豊府小学校6年生 180人

教材 「たのしみは」

ねらい ◎「書くこと」において、短歌に対する感想や意見を伝え合い自分の作品のよいところを見付けることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕（B書くこと（1）カ）

○「書くこと」において、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕（B書くこと（1）ウ）

○語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。

〔知識及び技能〕（1）オ）

○語句の係り方や語順、話や文章の種類とその特徴について理解することができる。〔知識及び技能〕（1）カ）

○学習の見通しをもって短歌を作り、積極的に短歌に対する感想や意見を伝え合おうとしている。〔学びに向かう力、人間性等〕

学習活動 ①言葉の使い方や表現を工夫して、楽しみが伝わり、読んだ人の心が温まる短歌をつくらう」という単元のめあてに向けて、自分の「たのしみ」を見つけてより適切な表現になるよう推敲する。

②完成した短歌を交流し、表現の美しさに気付く。

**予備授業Ⅱより 「星空を届けたい」  
（「マイプラン学習」の効果の検証及びブックトークの体験）**

実施日 令和6年7月8日（月）～令和6年7月18日（木）

対 象 大分市立豊府小学校6年生 180人

教 材 「星空を届けたい」

ねらい ◎日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関わり、気付くことができる。 [知識及び技能] (3) オ

○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。 [思考力・判断力・表現力等] (1) オ

○文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。 [思考力・判断力・表現力等] (1) カ

○テーマに沿って読んだ本を紹介するブックトークを行うとともに、様々な本を読み自分の考えを広げようとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

学習活動 ①教材文を読んで筆者の思いを読み取る。

②教材文を読んでブックトークをつくる。

③ブックトークを行う。

**〈○成果と▼課題〉**

**①実態把握について**

○いくつかの短歌を詠むことを通して様々な表現にふれ、短い文章や言葉でも伝えたいことを表現できると気付くことができた。

○ICTを活用して、子どものノートからそれぞれの学習状況を確認できた。すぐにコメントやスタンプを記入し返却したので、子どもたちの次の授業への意欲とつながった。

○子どもに付けたい力を明確にして単元を通して共有できた。どの時間でも子どもたちは付けたい力を意識して考えていた。

○常に「付けたい力」を意識させ、見通しがもてるように掲示物を作成した。学習計画は先を見通す手立てとして掲示物は子どもの興味関心を引くものとして有効だった。

▼「短歌をつくる」という創作活動であったため、学習が苦手な子どもは、やりたい気持ちはあるものの何をしようか分からず活動に取り組もうとしなかった。子どもの実態把握を確実にし、つまづきや困りを予測しておくことが重要である。

▼短歌を作成して表現を工夫する際に、「様子を表す言葉や気持ちを表す言葉を選択しておき選択できるようにする。」としていたが、子どもがどのような言葉を選択するかが曖昧で掲示できず手立てが不足していた。前時でおおよそ短歌を完成させ、子どもの状況を教師が把握しておくなどの手立てが必要であった。

▼単元のめあてでは目的意識、相手意識をもたせたが、子どもにとって必然性のあるものではなかった。子どもから、単元のめあてが出るように発問を工夫したい。

▼1学期だったため、子どもたちの人間関係がまだ構築されておらず、集団というよりは個々で学習していた。今後、ペアやグループなど、協働的に学ぶ機会を増やすことで学び合う楽しさや違う考えにふれて理解が深まる経験をさせたい。

▼単元全体を通して、「させられている」という感じが強かった。自ら進んで学ぼうとする姿はあまり見られなかった。自分で考えて自分の学習ペースを選択させることで、

「自分で進んで学んでいる」という思いをもたせたい。

## ②「マイプラン学習」について

○「マイプラン学習」は自分で選択するという新しい活動であったため、子どもたちは自由にできる雰囲気を楽しみ意欲的に学習に取り組む姿が見られた。

▼仲がよい友だちとだけで集まったり、支援の必要な子どもが一人でいたりと学びのための人間関係ではなかった。そのため、慣れてくると学習を進めずに、友だちと関係のないことを話す様子も見られた。事前に「マイプラン学習」をする目的をしっかりと伝えておかなければならなかった。

▼単元のねらいは同じで、それを達成するまでの手立てや方法を子どもたちの立場から考えればよいことが分かった。従来の授業よりも多くの準備が必要であるとともに、同じ活動でも、選択肢をいくつ用意するのか、どのような選択肢があればよいのか等を十分に検討しなければならない。

## ③ブックトークについて

○ブックトークの実施が初めてだったので、そのイメージをもたせるために、各自にブックトークの動画をそれぞれのタブレット端末へ配付した。一斉に動画をみるよりも、各自に配付した方が必要な場面で確認でき有効だった。

○自分のブックトークの様子を動画に撮影して、振り返ることができた。

▼提出されたブックトークやまとめたノートを見ると、内容を理解していないまま進めたり、完成していなかったりした。一人一人の進捗を把握する工夫が必要である。

## 〈予備授業から検証授業Ⅰに向けて〉

予備授業Ⅰ及びⅡを通して、子どもの実態把握ができた。学習に対する意欲は低く「させられている」という様子が見られた。そのため、学習意欲を高めるための工夫と授業改善が必要であることが分かった。「マイプラン学習」については「自分で進められるからおもしろい」「これまでやったことがない」等と興味を示して活動に取り組んでいたため、学習意欲を高める手立ての一つとして効果があったといえる。引き続き、検証授業Ⅰで「マイプラン学習」の効果的な活用を検討することで成果が得られるのではないかと考える。

### (3) 検証授業 I (資料 P. 35～P. 50)

#### 検証授業 I より 「やまなし」

実施日 令和6年9月25日(水)～令和6年11月1日(金)

対象 大分市立豊府小学校6年生 182人

教材 「やまなし」

ねらい ◎比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。

[知識及び技能] ((1) ク)

◎物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

[思考力・判断力・表現力等] ((1) エ)

○文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解することができる。

[知識及び技能] ((1) カ)

○粘り強く物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりし、学習の見通しをもって作品世界について考えたことを書き、伝え合おうとしている。

[学びに向かう力、人間性等]

言語活動 物語と資料を重ねて読み、作品世界について考えたことを書いて伝え合う。

学習活動 ①「やまなし」の世界を作者の独特の表現から想像する。

②宮沢賢治の生き方や考え方をふまえて作品世界を味わう。

③「宮沢賢治の世界」案内書を作成する。

④「宮沢賢治の世界」案内書の発表会を学年とする。

⑤学年代表が昼の放送で発表する。

#### ①ふれあい班の発表会での児童観察

「宮沢賢治の世界」案内書の作成では、それぞれが「マイプラン学習」で学んだことをもちよって交流したり、担当を分担したりしてふれあい班ごとに意見を交わしながら協力してまとめていた。発表会では、まずは、クラスで実施し代表を選出した後、多目的ホールに学年で集まり同様の方法で代表を選出した。代表選出では、「声の大きさ」「内容」「魅力伝わり度」の三つの視点を与えて五段階で評価させ、得点が高い班を推薦することにした。子どもたちは、これまでの学習から「宮沢賢治先生の魅力を伝えたい」「自分たちが代表になりたい」という思いをもっており、「代表になりたい」という声がどのクラスからも聞こえた。とくに、自分のクラスの代表の案内書が学年の代表になれるようにと代表選出に向けて、各クラスでくりかえし練習をしたり、発表を聞き合ってアドバイスしたりと熱心に活動する様子が見られ、そのやりとりの中でさらに「やまなし」の理解が深まっていた。

その後、学年代表となった班は、動画を撮影し、昼の放送で全校に向けて放映し下級生や先生から声を掛けられうれしそうだった。その他の班の「宮沢賢治の世界」案内書は、それぞれのふれあい班の教室に掲示することにした。代表になれなくても、「自分たちが作成した案内書を読んでもらえる」と分かり、授業が終わったあとには「がんばってよかった」「代表にはなれなかったけれど、満足できるものを作れた」「宮沢賢治先生のすごさを伝えることができた」等、達成感を感じているようだった。

## ②事後調査及び振り返りによる児童の変容分析

【表 8】 授業後の児童アンケート結果

アンケート項目	事前	事後
①国語は好きですか	59%	77%
②国語は楽しいですか	70%	86%
③国語は分かりますか	85%	94%
④「やまなし」の授業はおもしろかったですか		96%
⑤「マイプラン学習」では、自分で考えて計画的に学習を進めることができましたか		93%
⑥「案内書」づくりでは、それぞれがつくったものをもちより、交流することによって、よりよいものができましたか		93%
⑦やまなしで心に残ったことは何ですか	※検証授業Ⅰの取組で子どもの心に残ったことを抽出したかったため、幅広い回答が得られる問いを設定した。	
<b>豊かな読みに関する記述</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物語にこんな深い話があるとは思わなかったので、物語を読むのが楽しくなった</li> <li>・本を読むときの視点が変わっておもしろかった</li> <li>・物語を読んで、想像する力が身に付いた</li> <li>・より深く読めるように、一つ一つの文章を丁寧に読みたい</li> </ul>		
<b>マイプラン学習に関する記述</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やりやすいし、分かりやすいのでまたしたい</li> <li>・自分で考える力が付いた</li> <li>・思ったよりできた</li> </ul>		
<p>○みんなと一緒にがんばるのもいいけど、自分で考える力がついたと思います。でも、一人だけでなく班員と一緒に活動することも楽しかったです。(A層)</p> <p>○「マイプラン学習」で自分たちだけで分かったときうれしかったです。(C層)</p>		
<b>「宮沢賢治の世界」案内書に関する記述</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協力できた、かっこいいのができてよかった</li> <li>・いろんな人の意見を共有したり、みんなと見付けたりして楽しかった</li> <li>・クラスや学年発表で緊張したけど楽しかった</li> <li>・個性が出ていておもしろかった</li> </ul>		
<p>○交流することの大切さに気がきました。一人で考える方が楽と思っていたけど、交流することでよりよいものがつくれました。(D層)</p>		
<b>「やまなし」に関する記述</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・独特な表現や世界観がおもしろかった。情景の色がきれいだった</li> <li>・五月と十二月のちがいをみんなで考察でき意味が分かるとこわくておもしろかった</li> <li>・かのにの心情変化</li> <li>・クラムボン</li> <li>・「やまなし」のあとが気になった</li> <li>・まだ疑問が残った</li> </ul>		
<p>○自分が知らなかった世界観をかのにの子らが代弁してくれました。(A層)</p> <p>○「かばの花」にあんな意味があったことが心に残りました。(B層)</p>		
<b>作者に関する記述</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品に興味があったので全て読んでみたい</li> <li>・賢治先生はすごい人で先生の人生を知ると内容が深まる</li> <li>・賢治先生の一つ一つの言葉の意味を考えた</li> </ul>		

・賢治先生の伝えたいことが分かった

- やまなしを深く読んでいるうちに本当の意味が分かってきて筆者の気持ちや意味が分かってとてもおもしろかったです。(A層)
- 最初は、「やまなし」で何を伝えたいか分からなかったけれど、授業をして宮沢賢治先生の伝えたいことが分かりました。(C層)
- 犠牲がないと幸せになれないと遠まわしに伝えていることにととてもびっくりした。(D層)

#### 授業者に関する記述

- ・先生との授業が楽しかった、分かりやすかった、よかった
- ・授業の進め方がおもしろかった
- ・先生がほめてくれた

- 「やまなし」を初めて読むときは、長すぎて正直おもしろくなさそうと思っていたけど、先生の授業で読んでみるととてもおもしろくて楽しいと思いました。(B層→A層)
- 先生の授業でヒントを教えてくれたり、自分で考えられるようにしてくれたりしたから前までは人の答えばかり頼っていたけれど、自分で答えを出すために考えることができました。(C層→A層)

#### その他

- ・今までの国語の授業とは段違いにおもしろかった
- ・考えれば考えるほどおもしろかった
- ・初めて国語が「おもしろい」「楽しい」と思った
- ・5組と一緒にしたのが楽しかった
- ・頭がよくなった気がした

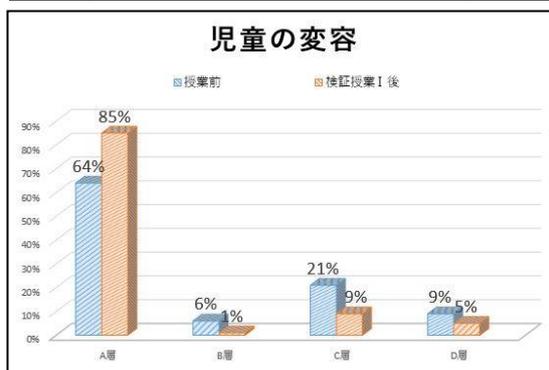
- 「やまなし」は考えれば考えるほどおもしろくなる物語でした。先生の授業を受けて、初めて国語が楽しい、おもしろいと思いました。(A層)

#### 〈授業後の振り返りより〉

- ア 「やまなし」の中で、どのような表現に心をひかれましたか
- |                                |     |
|--------------------------------|-----|
| 「かぶかぶ」「もかもか」などの独特の表現           | 50% |
| 「クラムボンは……」                     | 25% |
| 「ラムネのびんの月光」「金雲母のかけら」「白いかばの花」など |     |
- イ どのような点に着目して、作品にえがかれた世界をとらえましたか
- |                   |     |
|-------------------|-----|
| 「登場人物（かへの気持ちや会話）」 | 40% |
| 「情景描写」や「独特の表現」    | 33% |
| 「作者の生き方」          | 14% |
| 「対比構造」            | 8%  |
| 「魚の動き」            | 5%  |
- ウ これから物語を読むとき、作品の世界を豊かに味わうためにどんな読み方をしたいですか
- |                                    |     |
|------------------------------------|-----|
| 「言葉の意味を考える」（一文一文丁寧に読んで、様々な表現に着目して） | 45% |
| 「くりかえし読む」                          | 23% |
| 「作者との関わりや作者の意図を考える」                | 15% |
| 「登場人物の気持ちになって」                     | 12% |
| 「先を予想して読む」                         | 6%  |

【表 9】 検証授業前と検証授業後の児童の変容

層	国語は楽しいですか	国語はわかりますか	検証授業前 (159人)	検証授業後 (163人)
A層	とても楽しい・楽しい	とても分かる・分かる	64% (101人)	85% (139人)
B層	とても楽しい・楽しい	あまり分からない・分からない	6% (10人)	1% (1人)
C層	あまり楽しくない・楽しくない	とても分かる・分かる	21% (33人)	9% (14人)
D層	あまり楽しくない・楽しくない	あまり分からない・分からない	9% (15人)	5% (9人)



- 【表 8】①～③については、事前アンケートと比較すると全て肯定的な回答が増加していた。
- ④～⑥については、90%以上の子どもが肯定的であり、「やまなし」の授業で「マイプラン学習」や「宮沢賢治の世界」案内書を位置付けた成果が見られた。

【図 3】 層の移り変わり

- 事後アンケートで否定的な回答をしていた子どももその振返りに着目すると、「宮沢賢治先生はすごい」「犠牲がないと幸せになれないと遠まわしに伝えていることにとってもびっくりした」「マイプラン学習で自分たちが分かったときうれしかった」と肯定的なものがあげられていた。また、否定的な回答をしているものの1の評価を選択している子どもはいなかった。
- 【表 8】授業後の振返りについては、オノマトペや比喻表現など、宮沢賢治の独特の表現に心をひかれたとの答えが多かった。また、五月の世界や十二月の世界を読み取る活動を通して、「色」に着目して情景を想像してその美しさに気付いていた。また、「クラムボン」については、「意味がよく分からない」「死んだよ」や「殺されたよ」がこわい等の表現に子どもの心がひかれたと分かった。
- 作品にえがかれた世界をとらえるために40%の子どもが「登場人物」の気持ちになって「同化」の読みを、22%の子どもが「作者の生き方」「対比構造」といった「異化」の読みをしていることが分かった。加えて、作者の独特の世界観に着目した「やまなし」ならではの読みもしていることが分かった。
- 「やまなし」の学習を通して、これから作品の世界を捉える際には、「一文一文ていねいに読む」、「様々な表現に着目して言葉の意味を考える」と45%の子どもが答えた。「白いかばの花」や「ゆっくり静かに」という表現からは、カワセミに命を奪われた魚への「弔い」「葬儀」を連想していた。また、「やまなし」の花言葉が「希望」だと調べることで、根拠を明確にして十二月の世界観を捉えていた。
- 「やまなし」は教材の特質として一度読んだだけでは理解しにくく、作者の生き方と関わりがある。このことから、これから物語を読むときに「作者との関わりや作者の意図を考える」という「異化」の読みを15%の子どもが答えた。また、「登場人物の気持ち

になって」という「同化」の読みを12%の子どもが答えた。その他にも「言葉の意味を考える」「くりかえし読む」「先を予想して読む」という記述が見られた。

○【表9】及び【図3】から、A層は64%から85%と増加し、B層～D層は減少した。検証授業前にD層だった子どもは15人で、検証授業後にそのうち9人（D層の60%）はA層へ、1人（D層の6%）はC層へ、5人（D層の34%）はそのままという結果だった。新たにD層となった子どもは4人だったが、検証授業でのD層の子どもの様子や振り返りでは、肯定的なものが見られた。また、教材だけにとどまらず、今後の物語の読み方について書かれているものも見られた。

### ③「個別最適な学び」と「協働的な学び」は、学ぶ意欲を高める上で有効であったか

予備授業から引き続き行った「マイプラン学習」は、子どもも活動に慣れており、ねらいを意識して自分の学びに適切な方法を選択して楽しんで学習する様子が見られた。予備授業では、仲のよい友だちだけと集まっていた子どもも「学びのため」のグループづくりが上手にできた。また、一人で黙々と作業に取り組み、自分のペースで意欲的に学習する子どもが増えた。それぞれがあらゆる場面で自分で選択できたため、検証授業I「やまなし」の事後アンケートで、①～③の項目が全て増加していたことやA層が21%と大幅に増加したことから「マイプラン学習」は学ぶ意欲を高める上で有効な手立ての一つであったといえる。とくに、C層やD層だった子どもたちが事前アンケートで、「あまり楽しくない」「楽しくない」と答えた理由として、「先生や単元による」「算数みたいに自分で考えてやるのが国語にはないから」「自分で実行する授業が少ないから」等をあげていたが、その解消にも有効であった。しかし、課題によっては、選択肢が適切でなく子どもから質問が出るが多かった。そのため、子どもによっては「難しい」と捉えて意欲が低下することもあった。選択肢についてはどのような基準で、どのような意図があって選定していけばよいのかの検討が必要である。

「学びのプレート」は、新たな活動だったので子どもは新鮮さを感じていた。「マイプラン学習」で集めた情報をロイロノートの資料箱に保存させると、一目で自分の学習過程が分かったり、友だちと比較したりすることができた。「学びのプレート」を活用した「宮沢賢治の世界」案内書の作成では、役割分担を通して「やりたいからやる」担当を自分で選択し、班の案内書づくりを「やるべきだからやる」と子どもをエンゲージメント状態にするよう工夫した。班の友だちの考えをまとめる活動が難しい子どももいたが、自分の考えではなくてよい考えを選択したり、班の友だちの意見の共通点を見付けたりすればよいことを伝えたと安心して行えた。あわせてロイロノートの共有ノートの使用も子どもの意欲を高めた。また、単元のゴールにクラスの代表や学年の代表をみんなで選出するという活動を仕組んだことで最後まで学習意欲を継続させることができ、休み時間も活用して熱心に取り組む様子が見られた。

### ④「個別最適な学び」と「協働的な学び」は、「豊かな読み」のおもしろさを実感させる上で有効であったか

「五月」や「十二月」の世界を読み取る「マイプラン学習」では、「かにの会話や行動」「魚の様子」「上から落ちてきたもの」などの選択肢を用意した。全て考える子ども、どれ

か一つは考える子どもというように自分の学びのペースに合わせて選択していた。同じグループ内でそれぞれ違う選択肢を選んで考え、互いに交流してまとめているグループも見られた。「やまなし」の花言葉が「希望」であると調べ、作品と結び付けたり、宮沢賢治の生き方と作品を重ね合わせた発言をしたりと本文にある一つ一つの言葉にこだわって想像をふくらませながら読んでいた。「友だちと考えを交流する中で、自分にはなかった解釈にふれて「どういうこと？」と問い返すなど、読みの違いに気づき文章を読み直すことで自分の読みを深める姿が見られた。また、問われた子どもも文章に戻り説明することでさらに自分の読みを深めることができた。やまなしは、作者の生き方や思いを重ね合わせる「異化」の読みはするが同化の読みは難しいのではないかと予想していた。しかし、これまでの学習経験をもとにして「やまなし」でも40%の子どもは「同化」の読みを行っていること、22%の子どもは「異化」の読みを行っていることから「豊かな読み」ができる条件がそろっていたといえる。

一方、「やまなし」を読み取る上での視点を示していたが、なかなか子どもたちから考えが出なかったため、叙述を提示して考えさせるという活動になってしまった。そのため、一斉授業でマイプラン学習で学んだそれぞれの子どもたちの考えをつなぐというよりは、教師が主導で授業を展開してしまった。

「学びのプレート」については、初めての活動だったので、定義や位置付けが授業者自身も曖昧となり、これまで行っていた「話し合い活動」との違いや効果が明確にならなかったため、「豊かな読み」につながるための意図的な活用ができなかった。もう一度、「学びのプレート」を見直す必要がある。

## ⑤その他

学校図書館支援員からの動画や、学年代表による発表の場の設定などは、最高学年として頑張りたいなどの声があがり意欲化につながった。また、全校と関わる場面が多い運動会と同時期に行ったことにより、子どもの意欲をさらに高めることとなった。

ICTの活用では、「宮沢賢治の世界」案内書の推敲場面でロイロノートの共有ノート（班ごとにふりわけたもの）を用いた。班の友だちの考えを比較しながら、よりよいものを選択したり、文章をつなぎ合わせたりすることができた。書くことが苦手で、一人では考えが書けないことが多い子どもの場合も、効率的に作業を進めることができた。

「宮沢賢治の世界を旅しよう」と題して並行読書マトリクスを活用して並行読書に取り組ませたことで、宮沢賢治の作品の世界観や独特の表現方法に気付かせることができた。「やまなし」の読みを授業だけでなく、並行読書でも補足することができ「豊かな読み」のおもしろさを実感させるために有効だった。

音読カードに「物語の設定」を読み取らせるためのクイズを付けたのは家庭でも意欲的に学習に取り組む子どもに有効だったが、内容を全体で扱わなかったため「確かな読み」ができない子どもが多かった。「やまなし」の評価テストを実施すると、叙述をもとに解答を記述するというより想像を広げすぎて叙述からはなれて確かな読みができていない様子が見られた。

## ⑥まとめ

本研究における「豊かな読み」とは、同化・異化をくりかえすとともに、自分と違う考えにふれて内容を捉え直すことで想像力等を広げ、深めていくことの読みである。アンケートの結果から「同化」の読みをしている子どもと「異化」の読みをしている子どもがそれぞれいることが分かった。子どもによって読み方がちがうため、その読みをグループや全体で交流すると、なぜ考えが違うのか根拠を見付けるために、教材文をくりかえし読んだり、話し合ったりする。自然と内容を捉え直しつつ、同化と異化がくりかえされることとなった。また、友だちと交流することに加えて、マイフォルダに保存した画像や並行読書をした他の作品からさらに想像力等を広げ、読みを深めることができた。これは、「豊かな読み」をしている具体的な姿だと考える。さらに「宮沢賢治先生の表現のしかたが独特で、いろいろ考えさせられた。なぜ、こんなふうに表現したのか分かるととてもうれしかった」「「やまなし」を深く読んでいるうちに本当の意味が分かってきた」等の記述があること、「「やまなし」の授業はおもしろかったですか」に対して96%が肯定的な回答をしたこと、A層が21%増加したことをふまえると検証授業Ⅰで「豊かな読み」のおもしろさを実感できたといえる。さらに、「本を読むときの視点が変わっておもしろかった」「物語を読むのが楽しくなった」「一つ一つの文章をより深く読んでいきたい」等から子どもたちは「やまなし」の学習を通して、「豊かな読み」をする読み方を学べたと考える。

### 【検証授業Ⅰから検証授業Ⅱに向けて】

「豊かな読みのおもしろさ」については、①作者の人生や他の作品の並行読書②くりかえし行った音読③友だちとの交流④授業者の解説等を通して実感できている様子が見られた。

「白いかばの花って何をあらわしているのかな」「なぜ、魚は不思議な動き方をしているのかな」「クラムボンって何なのかな」など疑問をもって授業にのぞんだ結果、「五月の世界は意味が分かるとこわい」「もう一度家で読んでみようかな」という思いに加えて、「では、十二月の世界はどうなっているのかな」と次の世界についても考えようとする姿が見られた。ただし、今回は教材の特質によるものなので、どの文学的文章でも同様に「豊かな読みのおもしろさ」に気付かせることができるような工夫が必要である。また、「豊かな読み」の前提として、物語の場面設定を正確に読む「確かな読み」が必要である。

「個別最適な学び」（「マイプラン学習」）における学びの進め方は各自定着しつつあるが、選択肢は検討が必要である。どの子どもも活動に取り組みやすく力を付けられる手立ての選択肢についても吟味したい。また、1時間単位で行っているが、単元を見通したマイプラン学習も行えるとより個別最適化した学びとなり自立した学習者を育成できるのではないかと考える。そのため、「マイプラン学習」は、1時間単位ではなく単元全体を通したものにして、子ども自らが学習計画を立てて進めるようにする。

「協働的な学び」（学びのプレート）については、これまでの話合い活動との違いや効果を明確にしながらか「学びのプレート」でどのような活動を行い、子どもがどのような力を付けるのか再検討することが必要である。「学びのプレート」が子どもたちの課題を解決するための手立てということを明確にして、子どもが必要に応じて「学びのプレート」と行き来できるようにする。

(4) 検証授業Ⅱ（資料 P. 53～P. 61）

検証授業Ⅱより 「ぼくのブック・ウーマン」

実施日 令和6年12月12日（木）～令和6年12月20日（金）

対象 大分市立豊府小学校6年生 182人

教材 「ぼくのブック・ウーマン」

ねらい ○日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くことができる。

[知識及び技能] ((3) オ)

◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。

[思考力・判断力・表現力等] ((1) オ)

○人物像や物語などの全体像を具体的に想像することができる。

[思考力・判断力・表現力等] ((1) エ)

○進んで文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめ、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。

[学びに向かう力・人間性等]

言語活動 物語を読んで考えたことを自分の生活や読書経験と結び付けてまとめ語り合う。

学習活動 ①物語の設定を確かめる。  
②「カル」がどのように変化したのかを考える。  
③物語と自分の生活や読書経験などを結び付けながら、「キャッチコピーを入れた本の帯（紹介ポップ）」を作成しブックトークする。

①ブックトークの場面での児童観察

学年で出席番号が同じ友だちと集まりブックトークをさせた。予備授業で扱っていたことに加えて、本の帯やPOPがあったこととブックトークの時間を1分程度と短時間で設定したことにより、どの子どもも戸惑うことなく上手に発表していた。「ぼくのブック・ウーマン」を用いた発表では、全員が内容を理解しているので友だちの発表を聞いてさらに読みが深まった様子が見られた。他の翻訳文学を用いた発表では、作品の内容に興味をもって質問する等これまで読んだことのない本に興味を示す姿も見られた。

②事後調査及び振り返りによる児童の変容分析

【表9】授業後の児童アンケート結果

アンケート項目	事前	事後Ⅰ	事後Ⅱ
①国語は好きですか	59%	77%	76%
②国語は楽しいですか	70%	86%	88%
③国語は分かりますか	85%	94%	96%
④「ぼくのブック・ウーマン」の授業はおもしろかったですか		96%	96%
④と答えた主な理由			
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">豊かな読みに関する記述</div> <p>&lt;同化した読み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カルの気持ちを考えていくと、「ブック・ウーマン」や「本」に対してのカル的心情がどんどん変化していた</li> <li>・カル的心情がよく分かった、教科書から心情を読み取るのが楽しかった</li> </ul> <p>&lt;異化した読み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カルと「ブック・ウーマン」の距離の変化を考えるのがおもしろかった</li> </ul>			

- ・「ぼくのブック・ウーマン」という題名には、いろんな意味があると思った
- ・本がきらいだったのに、好きになるというストーリーがおもしろかった
- ・カルが、なぜ本に興味をわいたのか気になった

〈広げる読み〉

- ・本や学問の大切さを知ることができて、本を読もうと思ったし、読書がちょっとだけ好きになった
- ・翻訳文学の学習は初めてだった

マイプラン学習に関する記述

- ・自分のやり方でできるから効率よく順調に進めることができた
- ・先生の話はずーっと聞いていないで、自分で考えたり、友だちと話し合ったりできた
- ・一人ではなく、友だちと一緒に協力して勉強できた

学びのプレートに関する記述

- ・みんなの考えが違っておもしろかった。交流して周りの人の意見が分かった

単元のゴールに関する記述

- ・他のクラスの人と交流し、いろんな人のPOPをみれた
- ・少し分からないところがあったけれど、発表がおもしろかった
- ・POPや帯づくりがうまくいっておもしろかった
- ・テーマがあって何を考えたらよいか分かりやすく、自分の意見をもちやすかった

授業者に関する記述

- ・先生がおもしろくて授業が分かりやすかった

⑤「マイプラン学習」では、自分で考えて計画的に学習を進めることができましたか		93%	96%
⑥「学びのプレート」では、友だちと交流することによって考えを見付けたり、広げたりすることができましたか			96%
⑦「学びのチェック」までに自分で考えてワークシートをうめることができましたか			93%

⑧「マイプラン学習」「学びのプレート」による国語の学習はどうでしたか

- ・楽しかった (56人)  
 考えたらどんどん分かった、目的があったし楽しくてあっという間だった、自分で考える力もつくしみんなと話し合えた
- ・友だちとの交流 (15人)  
 みんなに自分の考え分かりやすく伝えて交流できた、友だちの意見や考えについて一緒に話し合えた、分からないところを友だちに聞くなど意見を交流して自分の考えをさらに理解することができた、自分の考えを深めたり広げたりまとめたりすることができた、一人で考えるときと集まって考えることでちがいが分かった
- ・計画的・効率的・やりやすい (17人)  
 自分で取り組めて計画的に国語を学習できた、時間通りに終わるよう時間配分を考えられた、自分だけで集中してスムーズにでき勉強が深まった、段取りよくすすめられた、一人より他の人とやった方が進む、自分で進めるので家庭学習でも役立ちそう
- ・よかった (15人)  
 先生に教えてもらうだけでなく自分たちだけで考えることができた、友だちと考えることができいつもより意欲的にできた、うまくまとめられた
- ・難しい・ちょっと大変 (12人)  
 けど楽しかった、できた、時間が少なかった、よく分からなかった
- ・おもしろかった (8人)  
 これまでやったことのない方法だった、友だちと意見を交流できた
- ・他クラスとの交流 (5人)  
 他クラスとの交流が楽しかった、いろいろな意見が知れて共感できた、帯やPOPにまとめると新たに分かったことなどが増えてとてもわくわくした気持ちになっておもしろかった

・またやりたい (3人)

- 自分で考えたことをたくさんの人に分かりやすく伝えるという力がより身に付きました。また、話し合ったことで、「そういう視点で見ることでもできるのか」や「そんな考え方もあるんだな」などと自分にはなかった考え方を知ることができて、とてもよい勉強になりました。(A層)
- 人と一緒に学ぶことが苦手だったので、「マイプラン学習」というものがあったとても助かりました。「学びのプレート」では、POPなどの楽しくできる授業があり、しかも、分かりやすく学ぶことができました。さらに、主人公の心の変化やブック・ウーマンがいることで変わることなど、詳しく知ることができ今までにないすっきりした感じを味わうことができました。(B層)

⑨「ぼくのブック・ウーマン」の授業を振り返って心に残ったことをかきましよう

内容に関するもの

- ・カルの本に対しての心情の変化がおもしろかった
- ・カルは最初本がきらいだったけど、最後は本を大切に持っているところ
- ・カルが本のことを最初は「にわとりのひっかいたあとみたいな字」と言っていたのに、最後は「抱きかかえるほど」大切な本になっていたこと
- ・カルが途中から優しくなり、カルの変化が面白かった
- ・「女の人」と呼んでいたけれど、最後は「ブック・ウーマン」と呼んでいたところ
- ・もともと本を読まないカルにとって、「ブック・ウーマン」が本を読むきっかけになったのがよく分かった。
- ・「ブック・ウーマン」の仕事は、人の人生を動かすこともあるんだなと思った
- ・「ブック・ウーマン」のように勇気ある人になりたい
- ・本を読みたいと思ったし、本を読めることが当たり前じゃないと思った
- ・本の魅力や本の素敵などを知ることができた
- ・勉強もできない貧しい人を救おうとしている人がいると知りとても感動した
- ・カルが住んでいる家はどのくらい遠いのかやどのくらい高いのかが気になった。

単元のゴールに関すること

- ・本のPOPを作って発表して他のクラスと交流できたこと
- ・ちがうクラスに発表してほめてくれたこと
- ・本の帯を作ることでいつも以上に自分の考えをまとめることができた。また、友だちのまとめ方も知れてより考えが深まった
- ・本の帯を思ったよりも簡単につくれた
- ・キャッチコピーがみんなちがったので、印象に残るものはみんな違うことが分かった

マイプラン学習に関すること

- ・自分たちで学習を進めることが心に残った

学びのプレートに関すること

- ・「やまなし」と同じでみんなできてよかった
- ・みんなと交流して、「その文章を使うんだ」と気付いたり、いろいろな考えがうかんだりした
- ・みんなと協力しながらできた

「豊かな読み」に関すること

- ・カルと自分の共通点を探ることができた
- ・カルが気持ちが変わった
- ・本であんなに変わるなら本を読もうかなと思った
- ・自分も文字が読めなかったからそれがカルと同じだった
- ・カルはいいやつだと思った
- ・カルが本を好きになるのはよいと思った
- ・カルのように本を好きになる人が増えたらよいと思った
- ・最初は本が嫌いだったカルをみたとき、ちょっとかわいそうだった

授業に関すること

- ・カルが本を好きになったきっかけを探るのがとても楽しく、国語が好きになれた

- ・ちょっと難しかったけど、カルの心情の変化が分かりやすくおもしろかった
- ・翻訳作品にもいろいろな工夫があることを知った
- ・他の翻訳作品も読んでみようかなと思った
- ・自分で大体は考えることができた
- ・「やまなし」とはまた違うおもしろさがあった
- ・「マイプラン学習」と「学びのプレート」が分かりやすかった
- ・授業が分かりやすかったので、自分の意見をちゃんと言えた
- ・またちゃんと「ブック・ウーマン」を読み直したい

〈子どもの感想〉

- 本が身近にあるということは、当たり前ではないということです。理由は、私は本を読むことがあまりなかったですが、この物語を読んで、本が身近にあるということは当たり前ではなく、とてもありがたいことだと気付いたからです。だから、これからは積極的に本を読み、知恵を身に付けたり、本を読む力を身に付けたりしていきたいです。(A層)
- 想像力を深めて考えるともっと楽しく本が読めることを今回知ることができました。私は、あまり本が好きではないけど、本を読もうと思うことができ少し感動しました。(C層)

#### ⑩単元末テストの結果

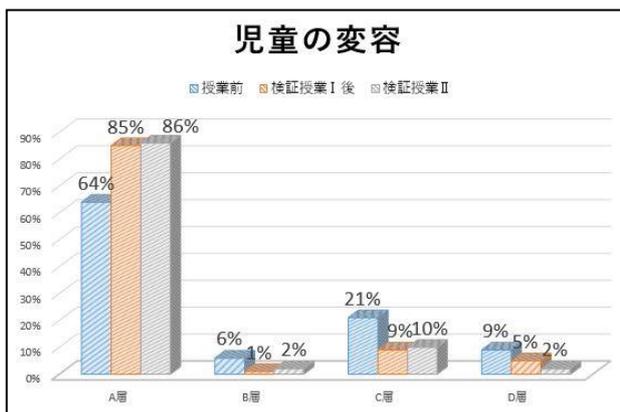
100点 52% (75人)    95点 28% (41人)    90点 13% (19人)

85点 4% (6人)    80点 0% (0人)    75点 1% (2人)    70点 2% (3人)

90点以上が93%、70点未満は0%という結果から、子どもは単元の内容をよく理解できているといえる。

【表10】 検証授業前と検証授業後の児童の変容

層	国語は楽しいですか	国語は分かりますか	検証授業前 (160人)	検証授業Ⅰ後 (163人)	検証授業Ⅱ後 (151人)
A層	とても楽しい・楽しい	とても分かる・分かる	64% (102人)	85% (139人)	86% (130人)
B層	とても楽しい・楽しい	あまり分からない・分からない	6% (10人)	1% (1人)	2% (3人)
C層	あまり楽しくない・楽しくない	とても分かる・分かる	21% (33人)	9% (14人)	10% (15人)
D層	あまり楽しくない・楽しくない	あまり分からない・分からない	9% (15人)	5% (9人)	2% (3人)



【図4】 層の移り変わり

○【表9】①～③については、検証授業Ⅰ後よりもさらに肯定的な回答が増えた。

○④については、検証授業Ⅱでも96%の子どもが「とてもおもしろかった」「おもしろかった」と肯定的な回答をした。その理由として、本単元のねらいの一つである読みを広げようとするものや、「同化」する読みと「異化」する読みの記述が見られた。

○④については、「マイプラン学習」や「学びのプレート」で交流することで自分と違

う考えにふれ、自分の読みを振り返って深める様子や記述が見られた。一方で、肯定的な回答をした子どもの中にも、「そこまで好きではなかった」「心情を考えるのが苦手」と否定的な回答も見られた。否定的な回答をした子どもは4%で、その理由として「国語があまり好きでない」「物語文がもともと嫌い」「話が長くて途中であきた」「話がいつもと同じ感じでおもしろくない」「分からなかった」が挙げられた。

- 「授業を振り返って」については、「ぼくのブック・ウーマン」の内容に関すること、「豊かな読み」に関すること、本のPOPや帯づくりといった単元のゴールに関する記述が多かった。
- 【表10】及び【図4】から、A層は検証授業Ⅰ後よりわずかに増加し、D層は減少している。B層とC層もわずかに増加しているものの、検証授業Ⅱの振り返りでは、「とてもおもしろかった」「おもしろかった」と答えたB層は100%、C層は80%、D層は67%であった。検証授業前の事前アンケートと比較するとA層+22%、B層-4%、C層-11%、D層-7%とA層が増加し、B～D層は減少した。
- 単元末テストの結果、70点未満は0%であった。

### ③「個別最適な学び」と「協働的な学び」は、学ぶ意欲を高める上で有効であったか

「本の帯やPOPを作成する」という単元のゴールは、子どもたちにとって初めての活動であったため、オリエンテーションの段階で興味をひき付けることができた。また、単元ゴールを明確にしてクラスをこえて交流させたことや「本の帯やPOPを作成する」際に、教材文だけでなく自分の好きな「翻訳文学」でもよいとするなど、本やまとめる方法を選択できるようにしたことも有効だった。一方で、学習意欲や学力が低く、最初から興味や関心をもてない子どもへの手立ての工夫が必要だった。

「学びのプレート」で設定した「学びチェック」は、進捗を確かめるものとしては有効だったが、子どもたちがあわてて作業をしており、「させられている感」が出てしまった。しかし、「マイプラン学習」を1時間単位ではなく単元全体で行うとともに、進め方については子ども自身で計画を立てさせたので「自分だけでできた」と達成感を味わうことができた。また、学習を進める中で、一人では解決できない問題が出てきた場合には、「学びのプレート」で友だちと相談したり、他の手立てに変更したりと必要に応じて「学びのプレート」を取り入れたためどの子どもも順調に学習を進めることができた。

### ④「個別最適な学び」と「協働的な学び」は、「豊かな読み」のおもしろさを実感させる上で有効であったか

「豊かな読み」をするためには「確かな読み」が必要である。「マイプラン学習」や「学びのプレート」の行き来を通して、「確かな読み」ができていない場合でも、友だちとの交流で修正され、正しい読み取りができた。「学びのプレート」では、自分の読みと友だちの読みを比較しながら話し合う様子が見られ、「マイプラン学習」で身に付けた「確かな読み」を根拠にしながら同じ考えの友だちと共感し合ったり、本文から想像したことを交流したりする様子が見られた。交流後に、一人で本の帯やPOPを作成することで自分の読みをもう一度見つめ直したり、友だちの考えを取り入れたりすることができた。

「ぼくのブック・ウーマン」は子どもにとって共感しやすい内容のため、主人公と「同化」する読み方が多かった。さらに、「本の帯やPOPを作成する」という単元のゴールを設定したことにより、必然的に「異化」する読みもできたようだ。

アンケートで「ぼくのブック・ウーマン」がおもしろかった理由として、検証授業Ⅰと比較すると「同化」する読みと「異化」する読みがあげられているだけでなく、内容理解に関するものが多くあげられた。検証授業Ⅰで新たな学習方法を身に付けたことで、文学的文章の読み方が分かり、内容に十分読みひたることができたといえる。また、「マイプラン学習」と「学

びのプレート」による国語の学習についても、「楽しかった」「よかった」「おもしろかった」「計画的・効率的にできた」等の感想が見られたことから自分で進めたり友だちと協力したりすることを通して、「豊かな読み」のおもしろさを感じていたといえる。

### ⑤その他

事前に音読に取り組ませるのは、短時間で内容を正しく理解させることができるなど、授業を行う上で有効だった。また、音読カードの裏に「物語教材の10の観点」を活用した問題を作成して、事前に記入させた結果、子どもは物語教材の読み方が分かり、確かな読みができた。一方、「ぼくのブック・ウーマン」をきっかけに他の「翻訳文学」へと子どもたちの読書の幅を広げることができるよう、そのおもしろさやよさに気付かせるための手立てとして、他の「翻訳文学」を紹介したり、並行読書を進めたりするとよかった。また、「本の帯やPOPを作成する」ことが目的となっている子どももいて、「読むこと」よりも「作品づくり」に力を入れている様子が見られたため工夫が必要だった。

ICTの活用では、「マイプラン学習」の選択肢に「タブレット端末で調べる」「図書室で調べる」を入れて、自分の学習に適切なものを選ぶようにした。すると、ねらいに合わせてどちらも使用する子ども、タブレット端末を使用する子ども、本を使用する子どもと分かれていた。場面に応じて、ICTとアナログを選択したり、うまく組み合わせたりしていくことが、子どもの学びに効果的だと分かった。

### ⑥まとめ

検証授業Ⅰ「やまなし」で「マイプラン学習」と「学びのプレート」の学習方法が分かったことで、文学的文章の読み方が分かり内容をしっかりと捉えることができた。検証授業Ⅱ「ぼくのブック・ウーマン」の授業を振り返って心に残ったことをかきましよう」の回答では、内容に関する記述が多かったことから、作品に十分にひたることができたといえる。子どもの振り返りの記述に「いつもより・・・」とこれまでの授業と比較して肯定的なものが多く、「マイプラン学習」と「学びのプレート」は、対象学年には有効だったといえる。ただし、変化が苦手なこれまでの一斉授業の方が落ち着く子どもや先生の話静静地に聞くだけの子どもにとっては、自分の考えをもって主体的に動かなければならず戸惑っている様子が見られた。

「マイプラン学習」と「学びのプレート」を組み合わせただけでなく、一斉授業をうまく

合わせてバランスよく行うことが大切であると分かった。また、「マイプラン学習」を進めていくためには、適切なヒントがあることが子どもの回答から重要だと分かった。実践を踏まえて得たマイプラン学習のポイントを【表11】のようにま

【表11】マイプラン学習のポイント

【マイプラン学習のポイント】	
①	単元の付けたい力をもとにねらいを設定する
②	課題や解決の手立て、学習方法等の選択肢を子どもの立場から準備する
③	ねらいを達成するための学びのグループ・ペア・一人を選択させる
④	ねらいを達成するための学習の進め方ヒント（答えではなく考えの道筋）を用意する
⑤	1時間から始めて、最終的には単元全体に広げ学習計画を立てさせる
⑥	進捗を確認するためのチェックポイントを設定する
⑦	振り返りで、自分の進捗を把握させるとともに次回までにすることを確認させる

とめた。さらに、子どもの振返りの記述に「自分で進めるので家庭学習にも役立ちそう」というものがあった。「マイプラン学習」は、授業形態の一つとして導入したものだったが家庭学習でも生かせるという視点からみると、「マイプラン学習」を行うことで自立的な学習者を育てることができる可能性が広がると分かった。

「豊かな読み」については、「同化」の読みと「異化」の読みをしている様子が見られた。それぞれの読みを「学びのプレート」で交流することで、それぞれの「同化」の読みと「異化」の読みがくりかえされ、違いに気付いたり、考え直したりすることで読みを深めたり広げたりすることができた。その前提として「物語教材の10の視点」をもとに、家庭学習での音読の段階から物語の設定を読み取ったこと（個）、学びのプレートで読み取ったことを交流したこと（グループ）、全体で交流したこと（一斉）で、正確に内容把握ができたことが大きかった。授業のねらいの一つである「日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くことができる」については、子どもの記述からも十分達成できたといえる。

## 8. 研究の成果と課題

### (1) 成果

本研究における成果として、学習意欲を高めるために子どもが主体的に取り組む活動を仕組むことが重要だと分かった。そのためには、「個別最適な学び（マイプラン学習）」で、学びの形態や課題、手立て等を選択させることが有効だと分かった。「個別最適な学び（マイプラン学習）」を実施することで、国語が苦手だと感じている子どもも授業に参加しやすくなった。学習意欲が高まることで、教材文とじっくり向き合う時間が増えるだけでなく、友だちの考えを「知りたい」という思いをもって「協働的な学び（学びのプレート）」で交流することができ、「豊かな読み」へとつながることが分かった。「個別最適な学び（マイプラン学習）」で一文一文丁寧に読み、「協働的な学び（学びのプレート）」で友だちとの「読み」の違いに気付く自分の読みに生かすことで、「豊かな読み」のおもしろさを実感できたといえる。

とくに抽出児Eには変容が見られた。抽出児Eは、ふだんから学習意欲が低く、朝も遅刻が目立っていた。授業には参加するが、授業中にノートをとったり、発表したりすることはなくただ前を向いて授業を受けているだけであった。どの教科でも学習に向かない様子が見られていた。【表12】にあるように国語に関しても例外ではなく、授業前には好きな領域は「話す・聞く」で理由は「楽だから」という回答が見られていた。しかし、授業後には肯定的な回答が増えていることが分かる。「ぼくのブック・ウーマン」では、本の帯を自分で作ってみんなに発表する様子も見られ、本人も満足していた。授業後にE児からは「マイプラン学習で友だちと一緒に考えられたことがよかった。先生との国語は楽しかったしおもしろかった。初めて一人だけで全部作れてうれしかった。」と感想を聞いた。

抽出児Eだけでなく、B層やC層だった子どもからも「前の国語の授業のイメージは、文を読んで答えを見付けるだけで好きではなかった。しかし、「マイプラン学習」や「学びのプレート」では、友だちと話すことで「そう捉えるんだ」と違いに気付いて文章を読んで想像する機会が多く楽しかった（C層）」「一つ一つの言葉に疑問をもって解決していくとおもしろかつ

【表 12】本研究における抽出児 E (D 層) の変容

	授業前	検証授業 I 後	検証授業 II 後
国語は好きですか	好きでない 授業自体が嫌い	好きでない	あまり好きでない
国語は楽しいですか	楽しくない 授業自体が嫌い	楽しくない	楽しくない
国語は分かりますか	分からない いつも	分からない	分からない
授業はおもしろかったですか		だいたいおもしろかった	だいたいおもしろかった
マイプラン学習では自分で考えて計画的に学習を進めることができましたか		だいたいできた	だいたいできた
学びのプレートでは、友だちと交流することによって考えを見付けたり広げたりできましたか		できなかった	できた
「マイプラン学習」「学びのプレート」による国語の学習はどうでしたか			楽しかった
授業で心に残ったことを書きましょう		宮沢賢治がすごいと分かった	自分でだいたい考えることができた

たしすっきりした。「マイプラン学習」や「学びのプレート」で国語の楽しさが分かった (B 層)」と言っていた。このように「個別最適な学び (マイプラン学習)」と「協働的な学び (学びのプレート)」を位置付けた授業改善を行うことで、子どもの学ぶ意欲を高めることができ、「豊かな読み」のおもしろさを実感できる可能性が広がると分かった。さらに、国語だけでなく他教科への汎用性もあると考えられる。「個別最適な学び (マイプラン学習)」と「協働的な学び (学びのプレート)」を他の先行実践と組み合わせ、年間の教育課程を見通した上で単元をしぼって年に 2 回程度は実施できるようにしたい。

## (2) 課題

「個別最適な学び (マイプラン学習)」については、学級の子ども同士の間関係や担任との関係、担任の授業力や学級経営力等がないと難しい。子どもも教師もねらいや目的がはっきりしていないと力が付かずただの「楽しいお話の活動」になってしまう。まずは、学習の目的を子どもと共通理解することが必要である。そして、担任が意図をもって学びのための人間関係を築く等の学級経営を行わなければならない。また、教材研究も従来よりも丁寧に行い、付けたい力を明確にした上で、学びの形態や課題、手立て等を考えなければならない。さらに、子どもの実態を把握をする力、個に合わせた教材の準備等も必要である。

「協働的な学び (学びのプレート)」は、それぞれの考えをもちよって、話し合うことで成果を得たり、新たな考えを生み出したりする場にしていた。しかし、これまでの話し合い活動から発展させたものにならなかったため、ジグソー法など様々な話し合いの形態を試す等の子どもの実態や授業のねらいに応じた改善をしていく必要がある。また、事前に授業者が子ども一人一人の考えを把握し、意図的にグループ分けをすることで、子どもが様々な考えにふれる機会を設定できるようにするとさらに学習の効果が期待できる。

今回、「豊かな読み」のおもしろさを実感させるために「個別最適な学び (マイプラン学習)」と「協働的な学び (学びのプレート)」を授業に位置付けた。これまで以上に単元構成の重要性や授業準備の大変さが分かった。また、一斉授業で主体性が身に付いていない子どもにとっては、ずっと考え続けなければならない苦しい時間になった可能性もある。必要に応じて一斉授業も組み合わせていくことが全ての子どもを伸ばすために大切だと考える。

## 9. まとめ

世界のグローバル化や多様化の波は日本にも押し寄せている。2020年には小学校において外国語が教科化された。外国語は明るい雰囲気だけで楽しくだけでなく、世界中の人々とコミュニケーションがとれる魅力的なものだと考える。一方、母国語である日本語教育についての関心は薄くなっているのではないだろうか。私自身も、「国語でどんな力を育めばよいだろう」「国語で子どもが主体的に活動する姿とはどんな姿だろう」と授業で悩むことが多く「国語のおもしろさ」を実感できなかった。しかし、宮沢賢治とその作品に出会って、国語に対する印象が変わった。宮沢賢治の作品の言葉の美しさや表現の巧みさ、文に込められた意味、そして何より宮沢賢治の生き方や作品のメッセージ性に惹かれた。この感動を子どもたちに伝えるためには、もっと学ぶ必要があると考え、今回この長期派遣研修に応募した。

検証授業においては、国語の基本的な授業方法に加えて、「個別最適な学び（マイプラン学習）」や「協働的な学び（学びのプレート）」を位置付けた授業を行ったことで、子どもたちの学ぶ意欲が高まるとともに、「確かな読み」を基盤とした「豊かな読み」へと広がりおもしろさを実感できることが分かった。子どもたちが生き生きと「分かった」「楽しい」「おもしろい」と学習している様子は私たち教職員の思いを熱くさせる。

最後に、大分市教育センター長期派遣研修という貴重な一年間で、指導主事をはじめ、多くの方の指導や助言をいただいたこと、また、在籍校である豊府小学校においては、予備授業、検証授業、授業に係る実態の調査、打合せ等、研究を進めるに当たって協力いただいたことに感謝を申し上げたい。この一年間で学んだことを生かし、大分市の教育に還元できるよう、今後とも研鑽を積んでいきたい。

## 10. 研究成果の還元方法

- ・大分市教育センターにおける研究報告
- ・大分市教育センターホームページ内コンテンツ「T-LABO」への論文や指導案の掲載
- ・所属校における実践及び研究

## 11. 参考文献・引用文献

- ・令和の「日本型学校教育の構築」を目指して  
～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（令和3年1月26日中央教育審議会答申）
- ・光村図書出版「国語（六）創造」教科書、指導編
- ・明治図書出版「教育科学国語教育」
- ・大分県教育委員会ホームページ（令和5年度大分県学力定着状況調査結果）  
(<https://www.pref.oita.jp/site/kyoiku/r5kentyouusakextuka1.html>)
- ・文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター  
『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（2020）
- ・内閣府「society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」（2022）
- ・藤田慶三「生きてはたらく言葉の力を身に付ける子どもが輝く国語科授業～読むこと編～」（2001）
- ・奈須正裕「個別最適な学びと協働的な学び」（2021）
- ・丸岡慎弥「自己調整学習力がぐ～んとアップ！夢中を仕掛ける「教えない」授業」（2022）
- ・若林、岡野、森田「三重大学教育学部研究紀要第71巻、教育実践」（2020）
- ・西田、平瀬「小学校音楽科と国語科の共通点に関する一考察

- 鑑賞曲と文学的な作品の教材研究に焦点をあてて— (2022)
- ・ 蓑手章吾 「個別最適な学びを実現する ICT の使い方」 (2022)
  - ・ 白石範孝 「国語授業の教科書」国語授業のフルコース」 (2011)
  - ・ 水戸部修治 「小学校国語科における個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた検討  
—ロングレンジの学習活動を位置付けた授業実践の開発—」 (2023)
  - ・ 個別の状況に応じたカリキュラムの編成・実践に関する提案
- ～Society5.0を見据えた「学びの変革」のアップデート～ (令和4年3月広島県教育委員会事務局義務教育指導課)
- ・ 樋口万太郎 「GIGA スクール構想で変える」 (2021)
  - ・ 辰野千壽 「科学的根拠で示す学習意欲を高める 12 の方法」 (2009)